

## イスタンブールの青

筆者は昨年9月にトルコ旅行に出かけましたが、旅行のハイライトは何といても、古都イスタンブールでした。重層的な歴史の厚みや欧州とアジアが混じり合うコスモポリタンな雰囲気、トルコブルーの空を映し出す、ボスポラス海峡やマルマラ海の美しい青色は実に魅力的です。イスタンブールの歴史については以前このコラムでご紹介しましたので、ここでは市内の雰囲気とボスポラス海峡や金角湾などについてご紹介します。

イスタンブールの欧州側は金角湾を挟んで旧市街と新市街に分かれています。下の写真の手前が新市街、川のように見えるのは金角湾ですが、金角湾の向こうに見えるのが旧市街です。



イスタンブールの新旧両市街を一望

旧市街はビザンチン帝国（東ローマ帝国）の首都がおかれていた場所ですが、1453年のオスマントルコ軍によるコンスタンチノーブル陥落後はオスマン帝国の中心ともなりました。ビザンチン帝国時代の遺跡としては、アヤソフィア大聖堂博物館や城壁・城塞、宮殿の跡など、オスマン帝国時代の遺跡としては、モスクに変えられたアヤソフィア、スルタン・アフメット・モスク（いわゆるブルーモスク）、トプカピ宮殿などの壮大な建築物を観ることができます。トプカピ宮殿はビザンチン帝国の宮殿の跡地に作られたもので、宮殿の庭に後に発掘されたビザンチン帝国の宮殿の跡を観ることができます。旧市街は観光のメッカでアヤソフィアやブルーモスクの周辺は世界中からの観光客で溢れかえっています。古都の雰囲気にマッチした低床路面電車が雰囲気を盛り上げ、ボスポラス海峡、マルマラ海に面したオシャレなレストランや土産物屋が観光客を惹きつけています。

金角湾を跨いで旧市街から新市街に行くには2つの橋を利用します。昨年9月の時点では、地下鉄用の橋が完成間近でした（2014年1月開通）。

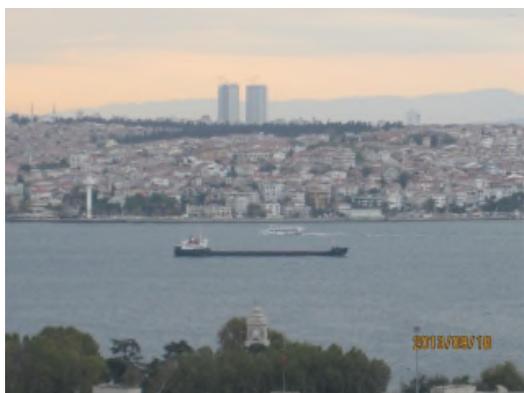
新市街はオスマン帝国後期からトルコ共和国時代にかけて発展した比較的新しい街です。旧市街の中心部はタクシム広場を挟んだ小高い丘の上にあります。この丘に、オスマン帝国時代にボスポラス海峡を通過する船を監視したガラソティ塔が観光スポットとして残されており、絶好の眺望が楽しめます（前掲の写真は塔の展望台から撮影したもの）。タクシム広場はその中心に独立記念碑があり共和国初代大統領アタチュルクの世俗主義革命のシンボリック存在で、また、広場に隣接した緑が美しいゲジ公園は市民の憩いの場となっています。昨年5月に始まったイスタンブール市民の反政府デモは、ゲジ公園でのショッピングセンター再開発計画に反対するもので、多くの若者がタクシム広場を占拠し、警察隊との衝突が起きました。ゲジ公園の緑を守る運動として始まったデモは次第に、イスラム色を強めるエルドアン政権に対する不満に代ったことで、デモが都市を中心に全国に広がりました。

昨年 9 月にタクシム広場を訪れた時は、デモの気配もなく全く平穏そのものでした。ゲジ公園の再開発計画と言われたものは実は新市街再開発の一部で、タクシム広場の脇にあったメインストリートは地下化され（昨年 9 月開通）、地上部分は広い歩行者天国になっていました。イスタンブール市長は歩行者天国部分の緑化計画を発表していますので、ゲジ公園に繋がる緑の公園になるようです。



歩行者天国になった車道。右がゲジ公園

タクシム広場の地下道を通り更に進むと、両側は外資系の有名ホテルやブティック、レストランなどが立ち並ぶオシャレなショッピングストリートです。私が滞在したヒルトンホテルの部屋はボスポラス海峡側で素晴らしい眺望を楽しむことができました。



ホテルの部屋からの眺望。ボスポラス海峡の向こうにアジア側が見える。

新市街からアジア側に行くには、ボスポラス海峡を跨ぐ 2 本の大橋を利用します。新市街中心部からは第一ボスポラス海峡大橋と言われるスルタン・アフメット大橋が便利ですが、ラッシュアワー時は渋滞となり、渡るのに 1 時間以上を要します。20 年近く前に、第二ボスポラス海峡大橋が日本のゼネコンによって建設されていますが、車の増加に追いつかない状況となっています。このため、同じく日本のゼネコンにより、第一ボスポラス海峡の近くに海峡を横断する地下鉄を敷設し、昨年 10 月に開通しました。更に、第二大橋より北側の黒海近くに、計画中の第三国際空港に併せて第三海峡大橋の建設計画があり、イスタンブールの交通インフラは着実に改善しつつあります。

ボスポラス海峡は世界でも有数の美しい景観をもつ海峡で、世界中の観光客を惹きつけていますが、別荘やクルーザーを所有し海洋リゾートを楽しむ富裕層が住んでいます。ボスポラス海峡の両側には、豪華な邸宅やプライベートクラブ、宮殿を使った超高級ホテルなどが立ち並んでいます。



オスマン帝国時代の離宮が超高級ホテルとして利用されている



富裕層のクルーザー

ボスポラス海峡の全貌は新市街の丘の上から眺められますが、空と海の青さや海峡沿いに豪邸が立ち並ぶ様子を観るには、海峡クルーズが最高です。1時間ほどのクルーズで第一ボスポラス海峡から第二ボスポラス海峡までを往復し優雅なひと時を楽しむことができます。



第一ボスポラス海峡大橋



第二ボスポラス海峡大橋

ボスポラス海峡のアジア側も興味深いスポットがたくさんあります。代表的なスポットを一つご紹介しますと、第一ボスポラス海峡大橋近くの古い町、ユシュクダル（日本ではウスクダラとして知られている）です。庶民的なこの町は美人が多いことで有名で、昔から船乗りたちが遊びに来たり宿泊したりしたようです。今から 60 年近く前に、江利チエミが歌ったトルコの歌謡曲、「ウスクダラ」は、この町に美人が多いとの噂を聞いてモノにしようと訪れた若い男が、逆に美女の虜になり生涯尻に敷かれたという笑い話のような言い伝えを歌にしたものです。原曲は恋歌だったようですが、これをトルコの言い伝えに代えて面白さを出したのでしょうか。美人が多いかどうかは確認できませんでしたが、確かにこの町はとても庶民的で、市場には新鮮な野菜や果物、魚介類を売るお店やケバブを売るお店などがたくさんあり楽しいショッピングの町でした。

ウスクダラの話はエキゾチックな雰囲気のあるイスタンブールの魅力をととても良く物語っていると思います。確かに、イスタンブールは「ワンダーランド」と言えそうです。

## <関連するファンドに関わる事項>

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象としており、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により、基準価額が変動し損失が生じる可能性があります。従いまして、投資元本が保証されているものではありません。投資信託は、預金または保険契約ではなく、預金保険機構または保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関でご購入の投資信託は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。購入の申込みにあたりましては「投資信託説明書(交付目論見書)」および「契約締結前交付書面(目論見書補完書面等)」を販売会社からお受け取りの上、十分にその内容をご確認いただき、ご自身でご判断ください。

お客様には投資信託のご購入にあたり、以下の費用をご負担いただきます。

■ 購入時に直接ご負担頂く費用

- 購入時手数料 上限 3.78%(税込)

■ 換金時に直接ご負担頂く費用

- 信託財産留保額 上限 0.50%

■ 投資信託の保有期間中に間接的にご負担頂く費用

- 運用管理費用(信託報酬) 上限年 2.16%(税込)

■ その他費用

- 上記以外に保有期間などに応じてご負担頂く費用があります。「投資信託説明書(交付目論見書)」、「契約締結前交付書面(目論見書補完書面等)」などをご確認ください。

\*上記に記載のリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、HSBC 投信が運用する全ての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用項目における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用はそれぞれの投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、かならず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

HSBC 投信株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第 308 号

一般社団法人 投資信託協会会員 / 一般社団法人 日本投資顧問業協会会員

### 当資料のお取扱いにおけるご注意

当資料は、HSBC投信株式会社(以下、当社)が投資者の皆さまへの情報提供を目的として作成したものであり、特定の投資信託等の売買を推奨・勧誘するものではありません。

当資料は信頼に足ると判断した情報に基づき作成していますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、データ等は過去の実績あるいは予想を示したものであり、将来の成果を示唆するものではありません。

当資料の記載内容等は作成時点のものであり、今後変更されることがあります。

当社は、当資料に含まれている情報について更新する義務を一切負いません。